

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 氏名 | 須 藤 千鶴子 |
| 学 位 の 種 類 | 医 学 博 士 |
| 学 位 授 与 番 号 | 乙 第 5 2 2 号 |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 昭和47年12月31日 |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当) |
| 学 位 論 文 題 目 | 肝疾患における血清補体に関する研究 |
| 論 文 審 査 委 員 | 教授 平 木 潔 教授 大 藤 真 教授 緒 方 正 名 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝疾患 200症例を対象とし血清補体 (CH_{50}) の変動をMayerの50%溶血法で測定し、症例の経時的観察とともにその変動因子の検討をおこなった。

- 1) 急性肝炎の初期には CH_{50} 価はやや高く、経過良好例は第3病週で正常範囲に安定するが、遷延化傾向例では再燃時に変動を示す。
- 2) 慢性肝炎の CH_{50} 価は不定である。 γ -glの増量、RA因子や抗肝抗体の出現する活動型では CH_{50} 価は低下傾向を示した。
- 3) 肝硬変では一般に CH_{50} 価は低く、測定不能例も認められる。
- 4) 中毒性肝炎、閉塞性黄疸では CH_{50} 価は高値を持続する。
- 5) 脾機能亢進合併例では術前の低値が摘脾後正常値に復した。
- 6) 慢性肝炎活動型72例中5例に CH_{50} 価、測定不能を認めた。それらの血清は新鮮ヒト血清およびモルモット血清に対して著明な抗補体作用を示し、低補体価肝硬変血清とは異った反応を呈し抗原抗体補体複合物の形成による影響が推定された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、肝疾患 200症例を対象として血清補体 (CH_{50}) の変動をMayerの50%溶血法で測定し、各症例の経時的観察とともにその変動因子の検討を行なったものである。肝疾患としては急性及び慢性肝炎、肝硬変、中毒性肝炎、閉塞性黄疸、脾機能亢進症等を含んでおり、慢性肝炎活動型72例中5例に CH_{50} 価が測定不能であり、これらの症例については特に詳しい検討を行ない、種々の重要な新知見を得ている。以上から本研究は学位論文として充分価値があり、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。